

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら)

事業所番号	0670100940		
法人名	株式会社東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑山形		
所在地	山形市東山形1丁目4-12		
自己評価作成日	令和 7 年 12 月 11 日	開設年月日	平成13 年 1 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の体操などの運動、創作活動で毎月変わる壁画作成、カラオケやレクリエーションで毎日充実した日々を送っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 8 年 1 月 19 日	評価結果決定日	令和 8 年 2 月 5 日

毎日手作りの食事を提供して、出来立てで温かく美味しいと笑顔で食する姿が見られ職員の励みになっています。看取り介護の利用者もリビングで皆と一緒に過ごし、食事も刻み食を完食して元気な毎日を送っており、常勤の看護師や協力医、歯科医の往診で健康管理や医療面でも安心して過ごしています。毎日、体操や歩行訓練で体力維持を図り、家事活動を日課にしている方やカラオケで持ち歌を披露する方など、何気ない日常の中から利用者のできることや喜ぶ姿を拾い上げ、活躍できる場面づくりに努め、利用者からの労いの言葉に癒されながら暮らしを共に支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に貼り、理解実践への意識付けを行っている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の時期から地域交流はあまりないが年4回発行する「千歳会通信」を発送している。 また、地域の資源回収に協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告や通信を通しての地域の方への情報を活かしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて地域の方への活動を報告し意見を頂きサービスの向上に活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	山形市介護サービス相談員の来苑を通して、アドバイスを頂くなどし関係を築くように取り組んでいる。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	代表者と共に身体拘束廃止委員会を設置し3カ月に1回委員会を開催している。そこで得た情報を他の職員に共有し日々工夫しながら取り組んでいる。玄関の鍵は夜間のみ使用している。	利用者の状態に気を配り、不穏な利用者には傍に寄り添い、職員間で連携して安全に過ごせるように支援している。現在やむを得ず身体拘束を行っている困難事例があり、ユニットカンファレンス(検討会)で検討を重ね、「切迫性・非代替性・一時性」の3要件を満たしていることから家族等の同意を得て夜間帯のみ実施し、拘束状況を記録し委員会にも報告して早期解除にむけて取り組んでいる。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の設置。職員間での情報を共有し虐待防止に努めている。	虐待防止委員会で高齢者虐待防止法や怒りの感情をコントロールし適切に対処するための心理トレーニング方法を学び、ユニット会議で報告と共に研修を行い、周知を図り、虐待防止にむけて適切な介護の実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	後見人の方が講師をして頂き、社内研修で職員が学ぶことが出来た		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約に関する説明をし、家族の話を聞き入れている		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と家族の来苑の際意見を聞いたり、誰でも書くことが出来る意見箱を設けている。また、利用者の思いを察する努力をし、運営に反映させられるように努めている。	利用者の要望はできる限り応えられるように、また表出できない方の思いの汲み取りに努め実現にむけて取り組んでいる。家族等とは面会時や電話で情報を共有し、運営推進会議や家族会でも協力を得るなど関係を築きながら、意見・要望を運営に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも管理者との意見の交換が出来る様になっている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人数が少なくなり時間外や休日出勤が増えてきているが協力しながら働いている。	管理者も現場に就いて職員の話や様子を見聞きし、勤務実績や取り組み姿勢を代表に報告して処遇に反映させている。また休暇制度を整え、資格取得の際は費用の全額援助があり手当に反映され意欲向上に繋がっている。	
13	(5)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の数は減っているが、以前参加した研修を見直しレベルアップに努めている。	毎月のユニット会議での内部研修では、パート職員も含め全員参加して学びを共有し、資質向上に取り組んでいる。外部研修には人員不足のため参加ができていないが、経験年数や未受講者を考慮して派遣したいとしている。	研修は必修研修を含めて年間計画を作成し、受講後は感想や今後に活かしたいことなどを話し合い、各自報告書として提出し理解を深めることに期待したい。

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	感染症対策や人手不足もあり、研修の機会が少なくなっているが、これまでに得た情報の質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接で本人の思いや家族の要望、不安を受け止め個別ケアを心掛け信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始より家族の要望を聞き取り、苑の説明を行いコミュニケーションを図り信頼関係を努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援を職員間で共有している。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る所は見守り、一方の立場にならない関係を築いている。	毎日、体操や歩行訓練などで体を動かし、掃除機掛けや食事の下準備、食器拭きなどを日課にして、またカラオケでは日頃口ずさんでいる歌を持ち歌にして楽しんでいる。時には、元気がない職員に「大丈夫か」と声を掛けてくれることもあり良い関係を築いている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子などを連絡取り合い共に支え合える関係づくりをしている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防に留意しながら家族の協力のもと関係が途切れない様に支援していく。	感染症が流行っている時期は、家族等、親族、知人の面会は事前予約・時間制限・玄関で行われ、また家族等と外出や外食などを楽しむ方もおり、関係継続を支援している。地域の方々には運営推進会議や災害時の協力メンバーになってもらい、事業所の良き理解者になっている。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の思いを大切にしながら、利用者同士の関りが出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の入院中は面会に行き、病院関係者との情報提供などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切にし状況把握が出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得ながら、アセスメントを作成したりと出来るだけ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送り、伝言ノートを活用し、情報を共有している。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時などに話し合い、本人家族の意見・要望を取り入れながら介護計画書を作成している。	毎日プランに沿ったモニタリング(観察)チェック表を使って評価を行い、その結果をもとにユニットカンファレンスで現状を話し合い意見を出し合って、サービス内容を見直ししながら介護計画を作成している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や、チェック表などを確認し、日々の記録で問題があれば、介護計画の見直しに役立てている。	毎日の活動や介護内容などは個人記録に記し、モニタリング・バイタルチェック表などと共に一人ひとりの状態把握に努め、職員間で共有し、ケアの実践やプランに活かしている。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせたサービスや支援を出来る限り提供取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主に公園や近所への散歩やドライブを楽しんだりしている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による月2回の往診と、週一回の歯科往診があり、必要に応じて受診を受けられ、適切な医療を受ける事ができる		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定 変化があれば報告、24時間対応出来る看護師のもと、利用者の状況に応じて受診など適切な指示を受けている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報の交換を得ながら、今後の治療や必要な施設の転院、環境作りを行い退院の時期を待っている	入院となった場合は看護師や管理者が同行し、医療機関に情報提供して連携できるようにしている。入院中は病棟看護師や相談員、家族等と連絡を取り合い、状態を確認しながら今後の支援策を検討し、本人にとって最善の生活拠点へ繋げている。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期同意書を取り交わし、ターミナル期がきたら改めて本人・家族の意向を聞き、かかりつけの医師と相談しながら、支援に取り組んでいる	入居時、本人・家族等に重度化、終末期の事業所対応を説明し理解を得ている。食事が摂れないなど状態変化に応じて医師の意見をもとに都度家族等と支援方法について話し合い、看取り介護の希望がある時は医師・看護師・職員がチームとなり、穏やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED応急手当の研修を受けた事はあるが、定期的な訓練は行っていない		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と地域の方々に参加してもらい避難訓練を実施している。災害時の地域協力者を決めて協力をお願いしている	年2回、運営推進会議委員や近隣の地域協力者の参加を得て火災時避難訓練を実施し、職員間で反省点・課題等を話し合い次に活かしている。BCP(業務継続計画)研修で地震発生時の連絡方法や各自の役割確認等を行い、また食料や水などの備蓄や非常持ち出し品を準備して災害に備えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の誇りやプライバシーを損ねないような言葉遣いや対応に配慮しているが、注意する時などに大声になったり、強い口調になる時がある。	利用者の入居前の情報や毎日の関わりでの気づき等から得られた一人ひとりの性格や思いを共有し、孤立しがちの方には寄り添い、声掛けや言葉遣いに注意して人格を尊重した対応を行っている。また排泄や入浴時の配慮や個人情報漏らさないなどプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・自己決定が出来るように声掛けを心掛けてはいるが、利用者本人からの希望を言う事は少ない為にこちらから声掛けをすることが多い。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりのペースに合わせ、希望に添えられる様に支援しているが、活動や体操時には声掛けをしている。	毎日のスケジュールはあるが食事や入浴、休息、趣味の編み物など一人ひとりが自分のペースで生活している。その中で職員の声掛けにより、毎日の体操と歩行や立ち上がり運動、カラオケ大会、散歩や外気浴などを行い楽しみながら気分転換している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合った服装に心掛け、美容師による訪問散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態に合わせた食事が出来る様に支援している。食事の準備、後片付けなど出来る範囲で職員と利用者が一緒に行っている。	職員が毎週交替で献立を考え、旬の食材を使い手作りの温かい食事を提供し利用者から好評を得ている。食後の後片付け、食器やテーブル拭きは利用者の日課となっている。希望を取り入れた行事食や毎月のおやつ作り(ホットケーキやお好み焼きなど)は皆の楽しみとなっている。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事の形態・量、好みの飲用物などに変えたりと対応をしている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケア、義歯洗浄剤を使用。週一回の訪問歯科の来苑などでケアをしている。	毎食後の声掛けにより出来る方は歯磨き、義歯洗浄を自分で行い、車椅子利用等で難しい方には介助して口腔内の清潔保持に努め、義歯は夜間預かり消毒洗浄している。毎週協力歯科医の往診時、利用者・職員に適切な口腔ケアで清潔に保つことの大切さを周知・指導している。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の合った時間での声掛けや誘導を行いケアしている。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間により声掛け誘導している。ほとんどの方が何らかの介助を必要としているが、日頃の立ち上がり運動などを通して立位機能の維持に努めトイレでの排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操体を動かし、乳製品などの摂取、下剤や座薬などを使用し個々に合った対応をしている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決まっているが、体調などを考慮しながら個人に応じた入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせ居室での休息やソファなどでゆっくりと過ごせる様に支援している。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には看護師より薬の説明があり、個々のファイルにも薬の説明を保管している。	全員の処方薬は看護師がユニット毎に2週間分を朝・昼・晩に振り分け、当日の配薬・服薬では職員が名前等を読み上げ飲み込むまで確認している。薬変更時は看護師作成の「個人のケアポイント」で共有し、状態変化ある時は記録して医師・看護師へ連絡、指示を受けている。	

	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた楽しみ方活動、気分転換が出来る様に支援している。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ・インフルエンザなどで制限される事はあるが、ドライブや苑前の公園への散歩に出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてお小遣いは事務所にて管理しているが、コロナ・インフルエンザなどで利用者同伴の買い物には行けないが、希望があれば職員が買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話を職員を通して行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁画や、窓から外を眺めると公園があり、季節感が一年を通して楽しめる。	正面に見える公園の新緑や紅葉、リビング壁面装飾などで季節が感じられ、適度の明るさ、温・湿度の中、利用者がテーブル席やソファなど自分の居場所でゆっくり過ごせる共用空間となっている。掃除や消毒・換気等で感染症対策を行い、動線上の整理整頓など安全にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室の温度は適温を保っている。食席やソファなどで個々が自由に過ごせる様に、時には職員も中に入り一緒に過ごしている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使用していた家具などを持ち込み、ボードを利用し写真やカレンダー等を飾っている。また、小さな仏壇を置いている方もいる。	引き出し付きベッド、クローゼットが備え付けであり布団等の寝具類は全員リースを利用し毎週のシーツ交換で清潔に気持ち良く休めるようにしている。テレビや冷蔵庫のほか仏壇などを持ち込み、壁面ボードに家族写真や手作りカレンダー等を飾り利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れる様に、手すりやバリアフリーの対応。各居室や共有スペースには表札などで分かりやすく工夫している		